

電池の試験装置 製造強化

Mywayプラス

電気の変換や制御を担うパワーエレクトロニクス関連メーカー、Mywayプラス(横浜市)は、バッテリー試験装置の製造販売を強化する。横浜市内の事業所を移転拡張して事業を拡大する。電気自動車(EV)へのシフトが進むのに加え、今後は産業車両や船舶、航空機などでも電動化への研究が進むとみて、幅広い業界への販売を拡大する。

新たな拠点に移転し研究開発や営業体制を強化する(横浜市)



横浜事業所を移転拡張 電動化の需要狙う

2月下旬に研究所を併せ持つ本社を横浜市西区にある賃貸ビルから同市港北区の自社ビルに移転する。新本社は8階建てで、延べ床面積は現在の約1.6倍の2600平方メートル。投資額は約13億円。神奈川県が企業誘致制度の税制措置や融資制度などで支援する。

同社によると、ハイブリッド車(HV)からEVへの移行でバッテリーが大容量となるのに合わせ、試験装置も大型化しつつある。研究所の移転・拡大を機に、開発に必要となる電気設備を増強するなどして製品の大型化や事業拡大に対応。今後は倉庫機能を備えた2000平方メートル程度の自社工場の新設も検討する。

Mywayプラスは電気を充電・放電してバッテリーの性能や耐久性、寿命などを検証するバッテリーの評価試験装置を手掛ける。バッテリーの容量や特性に応じて複数の装置を組み合わせて使用できる「モジュール型」

993年に設立し、バッテリー評価装置や研究開発向けの試験システム、モーター・インバーターなどの評価装置などを製造・販売している。「今後ますますな業界に電動化の需要がある」(楊仲慶社長)として、バッテリー評価装置を成長の柱と位置付ける。同社の20年5月期の売上高は16億5000万円程度で、3年間で2倍程度に引き上げる目標だという。